

設 立 趣 旨 書

毎年世界中で 1000 万人をこえる小児（5 歳未満）が、死亡しており、大部分が途上国の子ども達である。そのうちの多くが感染症によるものとされており、ワクチンで予防可能な病気で死んでおり 5 歳未満の小児の推定死亡数は約 200 万人にのぼる。

世界の子どもにワクチンを 日本委員会では、世界のポリオ根絶計画に関するユニセフ・WHO のパートナー機関として、途上国で早急に必要としているポリオを優先としたワクチン供与活動を展開してきた。現在では、アメリカ大陸ではポリオウィルスの伝播は遮断され（1994 年根絶承認）、日本・中国を含む西太平洋地域でも 2000 年 10 月ポリオ根絶の承認がなされた。ヨーロッパ地域も 1998 年を最後にポリオは発生しておらず、現在のポリオの主な流行地域は、東西アジア地域のインド、東地中海地域のパキスタン及び隣接するアフガニスタンと北アフリカの国々、およびナイジェリア、アンゴラ、コンゴなどの中央アフリカの国々に限局しつつある。

現在残るポリオ流行国は、紛争などにより非常に困難な状況にあるが、2005 年をポリオ根絶の目標年とするため現在計画が進んでおり、私達もまた、病気から世界の子どもを守ることを最重要課題として捉え、ワクチンがあれば、命をおとさずに済む子ども達のために行動をおこし、より一層の前進にむけて歩みだす必要がある。ポリオ根絶後も、ワクチンで予防できる疾病対策への支援にむけて、柔軟かつ迅速性と実効性をともなった活動を展開していく。

また、国内においては、子どもワクチンの確保に必要な資金調達とグローバルな人道的目標に到達するため、より多くの市民が社会に積極的に参加し、問題解決を可能とするボランティア活動の推進をはかっていく。特に、次世代を担う子どもの育成をはかるため、子どもと青少年のエンパワメントを目的とした、ボランティア活動の展開を可能とする環境づくりに力を入れていく。

国際社会の人道的目標を、日本の NGO としてイニシアティブをもって推進していくことを目的に、世界の子どもにワクチンを 日本委員会の組織強化と持続可能な発展にむけ、ここに新たに、NPO 法人として 世界の子どもにワクチンを 日本委員会を設立する。

平成 14 年 5 月 18 日

特定非営利活動法人

世界の子どもにワクチンを 日本委員会
代表者

熊本県熊本市黒髪 4 丁目 610 番地

細 川 佳 代 子

